
星に願いを

亜砂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
星に願いを

【Nコード】
N5237U

【作者名】
亜砂

【あらすじ】
幼なじみに彼女ができた報告を受けて、その人が好きだったと気付いたという話

「……ああ、七夕ね」

体育館と校舎を結ぶつなぎ廊下にあつた大きな笹。生徒会が音頭をとる、この学校の恒例行事。今年もそんな季節か、と思つたのは今日の朝だつた。

短冊を手に持っているジュンの姿は、何というか、余りに似合わなくて、どこか間が抜けて見えた。なんでまた、と、私の顔が言つていたのだろつ。説明なんか求めてないのに、勝手に向こうがしゃべりはじめた。

「リヨウコが」

そこで、ばつが悪いんだか照れてるんだか、とにかくそんな表情見せないでほしいなあ、などと思つていても、ジュンは気にしない。なぜなら私が言わないから。

「……枯れ木も山のにぎわい」

「いや彼女そんなこと言わないし」

「……サエコ先輩にも書いてもらつて、だと」

「……了解。リヨウコちゃんに直接渡せばいいよね？」

受け取りながらそう聞けば、あ、別に俺でも、という返事が返つてきたような気がするが、そこは聞かなかつたふりをした。

「じゃあよろしくな」

そう言つて自分のクラスに戻つていくジュンの背中を見るとともにに見ていると、今までジュンがいた場所にヒトミがやつてきて一言。

「幸せそうだねえ、ジュンは」

呆れ返つたような口振りに、思わず笑つてしまった。

「……何よ」

「だって、おかしいから」

まるでひとごとのように返したのが気に食わなかつたらしい。眉

間にしわを寄せて、ヒトミは私のほうをにらんだ。

ヒトミに、あんたバカじゃないの、と心底呆れられたのは、つい先週のことだ。ずっと前の出来事のような気もするし、そうでないような気もする。

先週、一つ下のリョウコちゃんに、ジューンは告白されていた。

私は、ジューンに女の子が告白してくるなんて思ってもみなかった。ジューンが女の子と付き合い始めるだなんて、夢にも思わなかった。嬉々として私に報告してきたジューンのことを思い出す。生徒会つながりで知り合っていたあの二人。あの子はこいつのこと好きだったのか、とか、即オーケーもらうなんて、あの子ラッキーだよな、とか、まあいろんなことを考えたのだけれど、それより何より、その報告を聞いて自分がシヨックを受けているのが一番シヨックだった。

シヨックを引きずったまま下校しようとして、ヒトミに見つかり、洗いざらいしゃべらされることになって、ああ、そうだったのか、と改めて思い知らされる。

私は、ジューンのことが好きだったのか。

私たちは、ただの幼なじみだとばかり思っていたのに。いや、それは間違っちゃいない。ジューンにとって、私は確かにただの幼なじみだったのだから。こんなことを私にわざわざ報告しに来てくれるくらい、私たちは仲が良かった。ただ、その中身が違っていただけだ。

恋の始まりさえ自覚できず、終わってしまっただけで初めて気づくなんて、なんて……。

「それ、何書くの」

手に持ったままの短冊を見て、ヒトミが聞いてきた。

「これ、ねえ」

いつまでも手元に置いておくものじゃない。とっとと書いて持つ

ていつちやおう。あの子がなんで私に頼もうと思ったのかは知らないけれど、別に私が意地悪する必要なんかない。仲良くしようとも思わないけれど。

ちよつと考えて、『しあわせになれますように』と書いてみた。

「『好きな人が彼女と別れますように』とか」

「私そんな意地悪じゃないし」

「そんなんでシアワセになれるの」

「……分かんないけど」

分からないけど、今はいかにも幸せそうなジユンの姿を見ているのもいいかもしれない、と思った。

ああ、私はジユンのことが好きなんだ。と思った。

いつか、私もしあわせになれたらいいと思った。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5237u/>

星に願いを

2011年10月9日09時04分発行